

## 巻頭言

# 誰が伝え、誰が承(うけたまわ)る、経験をどう伝えるのか。

公益社団法人 宮城県精神保健福祉協会

会長 高階 憲之

(特定医療法人 松涛会 南浜中央病院 理事長)

13年前に発災した東日本大震災では、宮城県内の民間精神科病院は震災による被害を受け、特に沿岸3病院が津波で被災しました。そのときの経験を踏まえて、宮城県精神科病院協会は「MIYAGI 3.11 2011 東日本大震災の記録」という記録紙を作成しました。各病院の記録に加えて、震災での特例等の通知をまとめ、支援をいただいた事への感謝と今後の災害に役立つようにと全国の精神科病院協会に配布いたしました。その後に九州地方で大地震が発生しました。その後に、被災した病院の院長と話をした際にお尋ねしたところ、記録紙は見えていなかったとの答えでした。

1978年6月12日午後5時14分に金華山沖を震源とし派生したマグニチュード7.4の宮城県沖地震から46年が経ちました。この地震では津波は殆ど記録されませんでした。仙台市や石巻市で震度5を記録し県内でブロック塀の下敷きになるなどして27人が犠牲になりました。昨年6月に宮城県沖地震について実施されたアンケート<sup>(1)</sup>では、地震が起きた日を「知っている」という設問に78.5%が知っていると答えましたが、正答率は全回答者の73.3%でした。50歳以上の世代では81.0%が正答しましたが10代から40代では44.2%でした。東日本大震災の経験伝承について仙台市が実施したアンケート<sup>(2)</sup>では、37.2%が「すでに伝えたり、残したりしている」と答え、特に60歳以上の世代では回答率は4割以上でした。本年(2024年)2月に東日本大震災後に生まれた宮城県内の小学6年生を対象にした調査<sup>(3)</sup>では、東日本大震災の発生日月を答えられなかった児童は17.7%であり、震災の記憶が十分に伝承されていないようです。

本年(2024年)1月1日に発生した能登半島地震への対応について、3月に地方紙20紙が過去の教訓が生かされたと思うかどうかを尋ねるアンケート<sup>(4)</sup>を実施しました。「あまり生かされていない」が21.2%で「生かされていない」が14.0%であり「避難所一つとっても3.11の時と同じ景色」など避難所の環境を上げる否定的な意見も多くありました。しかし、「十分に生かされている」が3.2%、「ある程度生かされている」が35.6%で、38.8%が「生かされている」と評価しています。「津波避難を呼びかけたアナウンサーの口調」「地震を経験した地域からの早期の支援」「避難所の仕切りや段ボールベッド」の意見に加えて「教訓が生かされていないとおかしい」という意見もありました。

宮城県沖地震や東日本大震災を体験した世代では、地震や震災は自己の生活史の一部で忘れがたい記憶です。被災体験を地震や震災を体験していない世代に伝えることは努力を要する事かもしれません。そして、「多くの人は見たいと欲する現実しか見ない」という言葉があります。災害が日常化している今、これからも経験値の蓄積をし、経験を伝える為に日常的な情報の発信を行い、被災地には経験から得た知恵をプッシュ型の支援で生かしていくことがますます必要と思います。

1. 宮城県沖地震起きた日は？ 「6月12日」分かったのは40代以下で44%止まり 河北新報社アンケート  
河北新報 2023-6-7、河北新報オンライン、<https://kahoku.news/articles/20230606khn000040.html>、  
(参照2024-06-28)
2. 仙台市、防災に関する市民意識アンケート調査報告書（概要版）、2019年
3. 「3.11」後生まれの宮城県内の小学6年生、6人に1人が東日本大震災の発生日月日正確に書けず 河北新報 2024-2-26、河北新報オンライン、<https://kahoku.news/articles/20240225khn000024.html>、  
(参照2024-06-28)
4. 3・11、熊本…能登地震で教訓は生かされた？ 地方紙20紙アンケート 識者「過疎地の広域被害、他でも起こりうる」 河北新報 2024-3-1、河北新報オンライン、<https://kahoku.news/articles/20240229khn000027.html>、（参照2024-06-28）